

## 第 13 回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

ただ今から第 13 回サッカースタジアム検討協議会を開催いたします。野村委員は欠席と聞いております。

それでは本日の議事に入りたいと思います。今年度に入って、具体的な内容に踏み込んでいっておりますので、毎回、前回の協議した内容等について確認をして、確実に進めていく必要があると思います。そういった意味で、前回の協議会での決定事項、あるいは保留となった事項については、再度これについても確認等をしながら、議事を進めてまいりたいと思います。

それから修正意見等があったものについても、それを受けて修正案を持ってきて、確認をいただくということをして進めていきたいと思ひますし、保留となった件についても先に審議をした上で、その次の問題に入っていきたいと思ひますので、お願いしたいと思ひます。

それでは資料の確認をさせていただきます。

資料の 1 が、前回の議事の結果になっております。

資料の 2 は、その前回は修正したスケジュールが入っております。

資料 3 についても、評価項目とした例等の修正になります。

資料 4 は、参考資料として前回保留となった事案に関する確認です。

資料 5 については、今回新規に出てきたものです。

資料 6 についても、アンケートに関して、新規のものになります。

資料は、よろしいでしょうか。

それでは、最初に、前回のサッカースタジアム検討協議会に関して、議事として、結果について取りまとめたものを記載しておりますので、これについて確認をしていきたいと思ひます。それでは、事務局の方から、内容について説明をお願いします。

事務局

失礼します。それでは前回のことについての確認という形で、読まさせていただきます。まず（1）今後のスケジュールということで、全体的な進め方については、そこにありますように、一部修正がありましたので、資金調達の手法、建設・運営主体のあり方等についての事業化に資する検討の追加、コンセプト検討期間を候補地の詳細検討と同期間まで延長するというので、一応了承をされております。

（2）候補地の絞り込みの検討フローということで、四角に囲んであるところで、「広島西飛行場跡地」を除外することについて、異論があったために、次回の検討協議会へ結論を持ち越しました。「中央公園自由広場および芝生広場等」と「旧広島市民球場跡地」の両候補地は評価項目が共通するものが多いので、1つのグループとして調査することについて

ては了承されました。共通しないものについては個別に評価すると、そういう確認でした。

(3) ですが、候補地の絞り込みを行うための評価項目として、四角にまとめておりますが、AHPによる重みづけにより得られた定量的な評価結果は、絶対的なものとせず、候補地の評価・絞り込みの判断の際の参考材料として議論していくことで了承されました。また、評価項目について、用地の有する活用面でのポテンシャルの評価、用地条件における拡張性、アクセス性における徒歩・自転車利用、防災機能等の追加の意見がありました。以上です。

三浦会長

はい。以上が前回の議題となったことで、確定をしたこと、これを担って今日に持ち越されたというものでありますけれど、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、続きまして、資料2の今後のスケジュールについてです。こちらについても、今の資料1の中にもありましたように、修正部分がありました。全体のスケジュールについて修正をしていますので、議論を受けてどのように修正したかについて事務局の方から説明します。

事務局

失礼します。資料2の今後のスケジュールということで、まず協議会の検討内容については、概ね了解されたという具合に判断をしております。

2番目の工程表の(3)絞り込んだ候補地の詳細検討というところで、スタジアムのコンセプト検討、これを時間をかけてやった方がいいのではないかというご意見でしたので、それを一応8月まで延ばしております。こういった形で、あわせて②から⑤までの項目をやっていくという形で修正をしておりますので、ご検討ください。よろしくお願いします。

三浦会長

工程表として、議論の進行としておよその目途で作っているわけですが、よろしいでしょうか。

小谷野委員

今回の協議会は7月に2回やる予定のものを調整がつかないので今日やることになったという次第ですが、やはり8月も2回ぐらいやった方がいいような気がします、いかがでしょうか。と申し上げますのも、前回に私が申し上げました通り、資金調達の話や対象候補地の検討などは、若干、委員さんにとっては初めて目にする項目でもあるんですね。ある程度用語やスキームの説明を考えますと、あるいは数字もかかることを考えますと、8月1回だけでは終わらないんじゃないかという感じがしますが、いかがでしょうか。

三浦会長

そういう意見がありました。

加藤（義）委員

9月以降になると、いろいろまとまりが出てきて、議論も多くなると思いますので、予備日をどこかに予定を入れていた方がいいんじゃないかと思います。

三浦会長

特に反対という意見はないですか。

塚井委員

前回、欠席をしてしまったのですが、私は単純にもろもろの作業を担当される皆さん方のことを考えますと、今結構ハードなので大丈夫かなというのが、正直言っているんです。先ほど小谷野委員がおっしゃいましたように、概念の説明とか、理解を促すための回という意味でもっとというのは賛成なんです、そこまでに具体的な検討をしろということを経済局に申し上げて、何かできるというふうにはちょっと思えない。どのスキームにとっても、大きな話が出てきます。スキームというのは事業の進行にしても、交通のアクセスの件の問題なども、意識しております。そういう意味で、最終ラウンドに対するわれわれの理解を助けるのに資するという趣旨であればよろしいかと思いますが、追加して何か案を生んでいくというような作業が事務の方で無理ではないでしょうかと、多少心配しております。これは、むしろ事務局と会長、進行される方々とのお話ですが。

三浦会長

そのあたりを踏まえて、今、小谷野委員から提案のあった内容について、同じ形式の協議会としてやるのか、あるいは参考となるような会としてやるのかを考えていければいいかなと思いますが。基本的には、議論の内容を深めるために密にやった方がよいのではないかと思いますので、日程調整等も含めて検討させていただければと思います。

加藤（義）委員

9月に、客観的評価手法による候補地絞り込み結果というものが出ます。このAHP手法による候補地絞り込みとはどのことを言うのですか。前回にも出てきた、マトリックスがあって、分かりにくいあれがあって、アンケートをとることがありましたね。そのことを言うのですか。

三浦会長

AHPというのは、私たち委員の方でどの項目を重視するかということをそれぞれが判

断したものを持ってくるという。

加藤（義）委員

その前に8月の後半、9月の前半に評価検討とか絞り込みがあるわけですね。ここで、評価手法というのが、大きなウエイトで表現されているから、ただ参考にするだけというふうに書いてあるんですけど、ここらが揺らがされる恐れもあるし、まとまりが、方向が迷ったりするようなことがあります。どんな結果が出るか、予測がつかないわけです。少しこんなところは早めに出る方がいいんじゃないかなと思うのですが。そんなことは、評価するのに事務局の方では9月までにできないものですかね。

三浦会長

そこは、1番の検討内容に○が付いている上の段が私たち協議会の中で進めていくところで、下の段はそれに関する資料として用意をするものです。AHPについても、私たちの方で、それを評価した結果が材料として出てくるだろうということです。上の絞り込みと下の絞り込みがケンカするような内容ではないです。AHPについても、議論の時の参考資料にするということです。よろしいでしょうか。では、スケジュールについても、配布されたもので今後進めていくということです。資金調達等について、私たちが認識を深める会をひとつ検討しておきたいと思います。

それでは、資料3の候補地評価項目の設定です。前回の協議会で、それぞれのところで別の意見がありました。それを受けて、赤で書いてあるのが修正として加えたり、あるいは表現を変えたことになります。ポイントだけ事務局から説明をお願いします。

事務局

失礼します。それでは変更したところについて、述べさせていただきます。項目および内容について、ご意見をいただいたものについて、アンダーラインのところで追加・修正をしております。

まず1番の用地条件に拡張性というところで、将来の施設の拡張性という形で修正をしております。

3番のアクセス性ですけども、徒歩・自転車利用を入れるという意見で、徒歩・自転車利用をしたアクセス性を追加しております。

4番の牽引性のところで、サッカー以外の利活用も含めて、周辺地区の立地特性や開発プロジェクトとの相乗効果により、広島都市圏の発展を牽引するための中枢性・求心力が得られる場所かという形に変えております。

5番目の発信性で、施設のところを（場所）と入れております。

6番目の付加機能に（多機能化・複合開発）という文言を入れ、多機能化や複合開発による収益性が見込める場所かという内容にしております。

7番として、防災機能を入れまして、周辺の居住者・就業者の避難施設としての必要性という内容にしております。

9番の経済やまちづくりへの波及効果。ここには、(現在の利用状況を踏まえ、排他性・代替性等のマイナス面の効果も含む) という文言を追加しております。

10番のコスト性のところに、運営という言葉を入れております。

修正点については以上です。

三浦会長

前回、委員の方から意見をいただいたものを踏まえて修正案が出てきていますが、発言された方からちょっと趣旨がずれているとかありましたら、ご意見を頂ければと思います。

小谷野委員

趣旨というよりは、今後の進め方なんですけど、ここの4番目の牽引性の中で、立地特性や開発プロジェクトとの相乗効果とありますが、開発プロジェクトとはどんなものを具体的に想定しているのか。あるいは、7番の防災機能ですが、これを議論する前提として、今、広島の防災計画がどうなっているのか。共通の議論の土壌に触れないといけないなと思います。次の資料の4のところで、将来計画を考える際に、とりあえず今日の前提として、公表されている計画・構想のみを候補地評価の対象とするみたいな、ある種議論の便宜を図るような、一つの共通理解の提案が次の資料5でも後ほど出てくるとと思いますが、同様にこの牽引性を考える際に地域ごとの開発プロジェクトとは何が想定されるのか、あるいは防災機能ということで、今現状の広島の街の防災機能がどうなっていて、今後の防災計画がどうなっているのかという共通の理解が本質的な議論を進めていく上で必要なんじゃないかなと思います。

三浦会長

それは、それぞれの場所について、そういう情報を私たちが確認をしていくということによろしいですね。それぞれの候補地において、そういったプロジェクトとしてどんなものが関わってくるのかということですね。

小谷野委員

資料4にあるような感じでの、例えばどんな計画が全体であるのかというのをちょっと俯瞰したいなという趣旨です。

三浦会長

昨年度、県、市で、いろんな形で説明をしたものについて、より関わりのあるものだけ

に精選をして、私たちの共通認識とするということによろしいですか。

小谷野委員

前もって資料としてそういうものをお示しいただけたらと思います。

三浦会長

そのあたりは、今後進めていく上で大切なことですので、事務局の方でも準備をしていただければと思います。

加藤（義）委員

細かいことですが、アクセスのところで、徒歩と自転車利用があると思いますが、広島県の場合、二輪車、バイクのことも考えたいと思いますし、もう一つ、まちづくりの構成で、現在の利用状況を踏まえというのが少しわかりにくいんですね。新しいところに作るとする時に、現在の利用状況を踏まえて、ちょっと事務局の説明をしてください。

三浦会長

3番のアクセス性については、二輪車等というのはあると思います。それから9番の現在の利用状況を踏まえてということで、どういうことをイメージしたらいいかというご質問なんですけど、補足できますでしょうか。

事務局（コンサル）

それぞれの候補地の中で、現在、例えばイベント的な使われ方も含めて、いろいろな使われ方をしています。そこに、例えば今回のサッカースタジアムを造った場合に、その場所ではそういうイベント的、催しのものの使われ方はできなくなる。それが排他性という趣旨で書いています。代替性というところは、どこか近隣のところでそういった催し、イベント等を近場で実施可能であれば、イベントごとにも代替できる場所がある。そういった意味で、今やっていることの現在の利用状況というものを踏まえた上でのまちづくりである、新しく造るということもありますけれど、現在取り組まれていることについてできなくなる、もしくはほかの場所でやれるということも踏まえての効果という趣旨で、赤字で追加させていただいています。以上です。

三浦会長

よろしいでしょうか。

塚井委員

今のところで、代替性の前に排他性と書いていただいています、この排他性とはどう

いう議論だったでしょうか。

事務局（コンサル）

排他性という趣旨ですが、その場所でできなくなるということもあったのですけれども、そういう趣旨だと考えているのですが、先ほどの資料1の下の（3）でのご意見の中で、用地の有する活用面でのポテンシャルの評価といったところがございました。実際、そこでのポテンシャルの評価をしていくという面をとらえまして、この場所でこういったものが一番適切な使われ方かというご意見だったと思うんですけれども、このサッカーの協議会の中で、スタジアム以外のもののベストなものが何かというのは少し難しい議論になってくると考えまして、現在使われている使われ方、そういったものでは使われなくなる、そういう趣旨で排他性という言葉の形をとらせていただいています。

塚井委員

そうすると、要するに現状の用途、要するに何を作っても現状の用途のものは排除すると、一部のものが現状のものも兼ねるというような器用な計画でない限り、端的に言って野球場を造れば野球にしか使えなくなると、そういう意味で、それ以前に何かイベントをしているとしたら、それが守れなくなることについての議論ですか。

事務局（コンサル）

そういった趣旨で排他という言葉を使って、代替というのはそういった取り組んでおられることが別のところで実施可能かどうか、そうすれば今のところで行われていることが無くなってしまうということではないですねという趣旨で、排他性と代替性という言葉の2つを併記するような形で表現させていただきました。

塚井委員

趣旨は理解いたしました。ここからは意見ですけれども、そもそもこの検討協議会の名称自体がサッカースタジアムについて検討せよということで。ただ今の事務局の方からご説明があった点は、前半の時に私が何度か申し上げていたつもりです。個人的には難しくても、それは評価するべきだ。つまり、サッカースタジアム、あるいは現状の用途を別に物事を考えてしまうと、本当に説得力のある結論が導けるんですかということを感じていたところなんです。しかしながら、無制限にそれをやるということが、我々のこのメンバーだけで、広島都市計画の、あるいは、すべてに関する責任を負うということは当然できない話ですので、限定が付いてくるとことは検討の作業上も、それから検討委員会の性格上も、必要なことではあるというふうに思います。しかしながら、限定が付いていることは意識していただきたい。これは強く思います。どのような場所であったとしても、現状のものを排除、あるいは代替するということにおいてのみ評価ができてくることであ

って、もちろんいろいろ経緯があることは承知しておりますが、しかしながら、そこに含みが残るということについては留保があるという条件で議論せざるを得ないと思うのです。現状、今の我々の状況を考えますと、期限が迫っていますし、この状態で検討を一刻も早く進めないといけないという時に、こういうふうに考えます。しかしながら、例えば発信性というところも、多少はそういうニュアンスもあるのかなと、もちろん更地に何か作ればそれはゼロと、ほとんど何も発信できない未利用地に何かができたとことで、それは当然の話でして。よほどひどいものを作らない限り、発信性はあると思います。しかしながら、ここに広島を印象づける、広島にとってという観点を少し入れていただいておりますので、これからいろいろなことが出てきた時に、難しい議論を申し上げるかもしれませんが、若干趣旨に外れたことになるかもしれませんが、ご了承いただいて、議事の進行を妨げるつもりはございませんので、今のようなニュアンスであるということを確認されて進めていただきたい。

鵜野委員

牽引性の中に入ると思うんですけど、やはり場所によって観客動員数がどこも一緒ということはないと思うのです。だから、この中で場所によって動員数がどこが優位とか、どこが不利とか、そういった評価、そういうものを牽引性の中の内容にぜひ決めていただければと思います。これは意見です。

三浦会長

今の意見に関して、何か。他にはいいですか。

それでは、前回ご了承いただいて、本日いただいたものを含めまして、評価項目について設定をするということで、今後進めていただきます。

AHP法でそれぞれについての重みづけをやると決めておりますので、一対比較アンケートについて前回説明をしたと思いますが、それによって私たち委員の方でどこが重視するポイントかというのをそれぞれが評価した上で全体を合算したものを作っていくということになりますので、今後、事務局側からそれはアンケート用紙が送られてきますので、回答いただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、次の資料に移ります。

先ほどあった、前回繰り越した件で、広島西飛行場跡地の件です。異論がいろいろありました。審議を継続することになっておりますけれど、特に予見条件としてどういうふうにするのかという部分で、それぞれの委員の考えに差があったと思います。そのあたりを、今回はこの辺で予見条件を整理する、こういうところで条件を与えた上で判断をすべきじゃないかということで、資料4を用意していただいております。

事務局



失礼します。資料4は3枚綴りであります。

- (1) ですが、最初に書いてあります通り、現在公表されています計画・構想のみを候補地評価の前提条件とするということで、1枚目につきましては、広島市の将来の交通体系ということで、平成22年度に広島市から出されております。こういった形の交通体系が将来のビジョンとして挙げられているということです。
- (2) は公共交通施策及び道路関連施策の事業箇所図、交通ビジョン推進プログラムとして、これも広島市から平成22年度に同時に出ております。そういった形で事業箇所図があります。
- (3) は広島都市圏LRT整備計画というイメージ図を出しております。これについても広島の方で、平成26年4月に広島都市圏LRTプロジェクト推進協議会の方からこういった資料が出されておりますので、ご参考にさせていただきたいということです。以上です。

三浦会長

今の部分で、前回の議論で広島西飛行場跡地に関連してもう一つ詳しく説明をいただければと思います。ポイントだけ説明していただければと思います。

事務局

資料の2枚目の事業箇所図ということで、広島西飛行場跡地のところ、地図のところの真ん中より下にありますが、そこに対して交通の事業計画が現在はないということです。これは現在の状況ですので、将来的にどうなるかは分かりませんので、この後出ます広島西飛行場跡地をどうするかという時に前回の意見の中にありましたけれども、将来的なことについての意見ではなくて、現在の計画の中で判断をした方がよいのではないかという形で、こういう形の図にさせていただいております。以上です。

三浦会長

今の(2)の資料は、補足がありますが、平成29年度までに検討し、事業着手、事業継続、実施、完成する事業ということで、表に表れていない、それぞれの地域もまた別にあったりするんですが、それぞれ年度を区切って具体化しようとしているところがここであるというものです。そういった時に、広島西飛行場跡地に関しては、まだ具体化するところまで行っていないということになります。

(3) については、鉄道系は、広島の場合ですと、LRT、路面電車と言った方が皆さんには理解できるかなと思いますが、LRTという、新しいタイプの軌道系の交通システムとして今整備を進めていますが、そういった中でも今、広島西飛行場跡地方面には格段のルートも検討されていない。駅の周辺であるとか、平和大通り方面には検討されていますが、広島西飛行場跡地の方にはないという状況です。これを踏まえて、前回の参考資料として作られた資料の中では、通常の踏まえた上での広島西飛行場跡地は条件的に、やはり

今私たちが早急にサッカースタジアムの候補地を選ぶという段階からすると、ここは対象としない方がいいんじゃないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。いろいろご意見があったと思いますが。

山根副会長

今会長が言われたように、近い将来建築しなければいけないのですよね。20年、30年後に出来上がることを目指すわけじゃないのですよね。だから、この現実的な構想のもとで可能なところでやっていくということを考えなきゃいけない。広島西飛行場跡地においては、サッカースタジアムだけではなくて、ほかのことの利用の可能性も大いにあるわけですし、近い将来、今から新しい計画のもとにその発展性も考えられると思うのです。そういう意味で、これはもう候補から外したらいいのではないかと思います。

三浦会長

いかがでしょうか。

塚井委員

すみません。前回欠席しまして、大変失礼しました。恐らくこのポイントは、私が申し上げるべきところであって。都市計画というのは、長期に渡ってするものですから、途中でいろんな事業が中止されたりということがございます。その途中途中で経済的な状況の変化で事業が中止になるというケースもございますが、基本的にはある前提条件の中でしか検討できない。この地区にポテンシャルがないというもので考えるわけではありません。いろんな意味で。例えば、皆さんもご承知の高速3号線、あのあたり、いろいろなポテンシャルの模索があろうかと。しかしながら、これはできたからある程度それは見込めて話ができるのであって、さまざまな計画が議論されていることは私自身も承知しておりますし、表に出ていない案件について相談を受けることもございますが、それについて返答することは不適当だと思います。というのは、ここでそれを前提とするような議論をしてしまいますと、できます事業に対して妙な足枷をかけることになります。それはほかの事業評価、ほかの都市計画に対してよろしくない影響を及ぼすというふうに思います。もちろん、ポテンシャルがあるなしのときに、こういうのもあるんだよという議論は、それは申し上げるべきかとも思います。そこまで排除する気はないですけども、計算をしたり、数字を当てはめたりする時にそういう議論を始めてしまうと、ちょっと收拾がつかなくなっていて、パターンがいくらでも枝を発していくのです。それはよろしくないことだと思いますので。基本的には、おっしゃっていただいたように、現状の資料4を前提で考えていくということが妥当だと思います。

加藤（義）委員

資料4で、公表されている計画というのは分かります。もう一つは、平成29年度までに進めるということも公表されていることなんですね。そうすると、事務局の説明に将来的な計画というのはこの中には入っていないという話があったので、例えば、20年、30年先でなくても、今、広島西飛行場跡地の利用計画がどんなに進んでいるのかというのがあると思います。よって、この後、さらに候補地の選定のところに影響すると思いますので、公表されている計画があるからそれだけで絞られるというのではなくて、やっぱり今から、今後20、30年は何ができよう道路は変えないんだ、これで行くんだということなのかどうかは念を押しておきたいところですが、そういうことを議論すると時間ばかりかかるので、難しいのかなと思うのですが、あまりここで資料として決めつけるのは少し行き過ぎではないかなと。理由は分かります、公表されていないのだから当然です。新聞で読んでおりますから。あまりこれは後をどうするか資料にはならないのではないかなと思って、ちょっと意見を言いました。

#### 山根副会長

今から作るわけです。それには先般の参考資料で出ております、クラス1の新設スタジアムの場合というJ1の要請があるわけですね。今までの球場ではそれはOKでしょうが、今から造るとなれば、これにのっとらないとしようがないじゃないですか。そういう意味で、軌道系がないというところが引っ掛かりますよね。この軌道系を今から造るとなると、それこそ50年かかりますよ。それは不憫なスタジアムを造るということになると思います。

#### 三浦会長

今のは前回の資料にもあったんですけども、基本的にはやはり軌道系がスタジアムには必要だろうということがあって、広島西飛行場跡地に関してはその部分でまず全くない状況であると。それを代替するのは道路になりますけれども、道路に関しても、新しく整備されたところを含めて分析したところ、かなりの時間を要しないと、これだったら帰っていけないというところで、帰る条件的に厳しいなということだと思います。さらに抜本的な交通系のものができるのであれば別ですけど、今のところそれが見えてない状況ですと、現時点では候補としては選びにくいと思います。

#### 加藤（義）委員

選定しない理由の中に、退場するまでの時間が長くなるという。それは道路事情だけ。道路事情は、本当に禍根を残さないように決断をするならば、将来、どんなことがあろうと道路はもう変えないんだということを言ってもらわないと納得がいかないです。やっぱり敷地を開発して、こういう跡地でやれば、用地から道路を出しても構わないし、そんなスケジュールが出てもいいと思うし、もし退場するのに時間があるならば、南道路のそばに駐車場を作ってもいいし、作ろうとした思いを持って計画を審査する必要があるのです

から、このことはいくら言っても今は時間がかかるばかりでどうにもならないから、ここで切って捨てないで、後に残してもらって、当面の検討からは外しておくというようにできないかなと。それなら今回の資料も納得ができます。

三浦会長

そういう意見が出ましてけど、いかがでしょうか。

ご意見としては、今後今から詳細に検討する際には広島西飛行場跡地については落とす、けれども、条件が今後変わる可能性があった時にはもう一度検討していただければというふうに思うのですが。

山根副会長

私は本当にこの広島西飛行場跡地はいいところだなあと思っていたんですよ。しかし、今、この資料をいただきまして、これは無理だなと思ったわけです。それは、軌道系のことも一つの大切な条件なんでしょう。はっきりと言っている。かつ、今の道の話は、途中の道を広げても、北の交差点で引っかかるということです。この交差点まで広げるとなると、それこそ都市計画から始まって、立ち退きさせてとなると、20年、30年はかかる問題になると思います。現実的に早く造りたいでしょう。そういうものができることの前提で造っていこう、将来のためにということにはならないのではないのでしょうかね。

鵜野委員

スタジアムというのは、あまりにも人が一度に動き過ぎるので、やはり広島西飛行場跡地についてはそういった用途にはあまり適さないのではないかと思います。どちらかと言うともっといいアイデアがあって、道を通して利用していただけるようなアイデアがもっと、この場じゃないとは思いますが。私も候補からは落とすべきだと思います。

山根副会長

確かにいい場所ですから、大いに今からの再開発というか、いろんなことは可能なんですよね。こればかりにとらわれるよりも、そちらの方へまた道を開いていったらいいんじゃないかと思いますけどね。

川平委員

私は、もともと9カ所から5カ所に絞って、5カ所について優劣をつけるという認識であったので、前回に広島西飛行場跡地を外すという要望があって、そこについては正直若干違和感を感じます。ただ、5つを並べた時に、今後実際に検討する過程において、数が少ない方が、進行や検証が早まるのは事実です。そういったことで5つを私なりに並べていった時には、広島西飛行場跡地は必ずしも軌道系がないからダメということではないと思い

ますが、道路 1 本ということを考えると、やや 5 つの候補の中からは劣後せざるをえんのかなという気がしています。以上です。

### 三浦会長

広島西飛行場跡地については、今回は条件的に厳しいという判断が多いと思います。そうした中で加藤委員さんが将来に対してという意見もありましたけれども、私たちに残された時間は短いので、今後の検討においては広島西飛行場跡地については外すということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

それでは、この部分については終わりました、新規の内容になりますが、それぞれのスタジアムについて。ちょっと資料を戻りますけれども、資料 2 をご覧ください。工程表の中で（3）の①、スタジアムのコンセプトの検討ということで、ご意見もありまして、これは重要なポイントで、今回だけでなく、7 月、8 月と議論を深めていく必要があるだろうということをいただいております。そういった中でまず議論のたたき台になるものが必要だろうということで、それぞれのスタジアムの候補地における、ここにスタジアムを作るとどういうコンセプトでいけるのかということで作成していただきましたので、事務局から説明していただき、その後、議論をしたいと思います。

### 事務局

スタジアム・コンセプトの件ということで、資料 5 の方をご覧ください。先ほど会長が言われましたように、上のところにも書いてありますけれども、「仮説」で、一応委員の方々にいろんな考えをしていただく上で、たたき台みたいなものがあつた方がいいのではないかと考えて作っております。ですから、これが議論の中身でやってくださいではなくて、これを参考に委員の方でコンセプトを作っていただくという考えの方がいいのではないかとことです。一応、事務局の方でいろいろ検討しましたもので出させていただきます。

まず、スタジアム・コンセプトの検討ということで、国内外のスタジアムトレンド。当該候補地のまちづくりの方向性。当該候補地の立地ポテンシャル。上記の観点を盛り込んで、スタジアム・コンセプトを抽出していくという流れで考えております。これについて、国内外のスタジアムを参考に、候補地のまちづくりであるとか立地ポテンシャルを加味したもので、候補地におけるスタジアムのコンセプトを考えていくという考え方です。

2 ページに移りまして、国内外のスタジアムトレンドということで、J リーグが提唱しております、これも以前の協議会の資料ではお配りしてあると思いますが、改めてここに載せています。

一応、ポイントだけで、文化としての【サッカースタジアム】、シンボルとしての【ホームスタジアム】、コミュニティができる【ファミリースタジアム】、ホスピタリティの【社

交スタジアム】。こういった形です。

続いて、国内外のスタジアムトレンドの 5 番に入りますが、街の集客装置【街なかスタジアム】、多機能複合型【スタジアム・ビジネス】、環境にやさしい【グリーンスタジアム】、プロフェッショナル【スタジアム経営】、最後に防災拠点としての【ライフスタジアム】といった形のもので考えて、これをもとにたたき台を作っています。3 ページにつきましては、以前、日本政策投資銀行が提唱したものを載せております。これで、中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地の方から順番にご覧ください。

まず 4 ページです。中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地について。まず当該候補地の現況・まちづくりの方向性ということで、【現況】としてはそこに 4 点ほど挙げております。

1 点目は、広島市の中心部に位置し、平和記念公園、原爆ドーム、広島城、ひろしま美術館、広島県立総合体育館など広島を代表する歴史・文化資源、スポーツ施設などが集積する地区。

2 点目。広島バスセンターや広島電鉄の路線と隣接しており、かつ、広島の商業拠点のひとつである本通りや地下街、官公庁施設に隣接している。

3 点目。中央公園自由広場・芝生広場等は、歴史と共に利用が変遷（武家屋敷～軍用地～原爆スラム～公園）、広島城、「サンフレッチェ」の名称発祥。

4 点目。旧広島市民球場跡地は、広島カープの本拠地であった歴史、中四国最大の商業業務地に近接。

【まちづくりの方向性】として、都心の核：広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核と位置付け、都市機能の集積・強化を図る。

【当該候補地の立地ポテンシャル】として、1 点目、JR 白島新駅、アストラムライン新駅整備によりアクセス環境がさらに向上する可能性あり。2 点目。広島の都心部の一等地にあり、大きな可能性を持ち、広島を中心市街地の活性化に資する地となりうる。

【スタジアム・コンセプト（案）】ですけれども、中央公園自由広場・芝生広場等については、「広島城に対峙する新たな「サンフレッチェ」のシンボルとしてのスタジアム」。これは、J リーグの提唱する「2 シンボルとして【ホームスタジアム】スタジアムは、街の誇り、設計思想は一貫して「ホームのために」というタイプ。これをもとにしております。

旧広島市民球場跡地については、「広島を中心市街地における街なか賑わいスタジアム」。これは、J リーグの提唱する「5 街の集客装置【街なかスタジアム】中心市街地活性化の新たな求心力タイプ、もしくは DB J の提唱する「街づくりの中核としてのスマートベニュー」タイプということです。

併せて 6 ページをご覧ください。これに従って、【コンセプトの展開イメージ（案）】として、4 点挙げております。

1 点目。発揮すべき街づくり機能。これは、街のランドマーク機能、サッカーを通じた集

客機能、コンサート等を通じた集客機能、サンフレッチェに関するミュージアム機能。

2点目。付帯すべき施設など。これは、中心市街地に立地するため、付加機能（多機能化・複合開発）は極力少なくして、既存集積（商業・飲食）機能との連携を図る。これは競合化を防ぐ意味です。

3点目。既存類似スタジアム。立地特性として交通の便が良い（駅から徒歩5分）。これは、ロンドン市内の例です。複合機能（併設を含む）、ホテル。これはブーリン・グラウンドというスタジアムの例です。

最後の4点目。留意点として、収益性の確保が必要である。これは、最初に言いましたように、宇品のこと（広島みなと公園）が立ち合いとしてありますので、これについてご意見をいただければと思います。以上です。

三浦会長

はい。一つずつ議論していきたいと思います。中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地は2つの場所ではありますが、まとめて言える部分についてはまとめてありますし、個別のところは個別で、今、方向性、それからコンセプトについては示されています。コンセプトの展開イメージも書かれておりますが、ここに関しては今後議論を深めていきますが、こういう視点が必要だとか、あるいはこれはどうかなというご意見が多いと思いますが、何かありましたら。あくまでたたき台ですので、活発にご意見をいただければと思います。

永田委員

それでは4ページのところから、この中でまちづくりの方向性という形で、中国新聞さんが広島の都市圏の商圈調査をされておられまして、情報を毎年出されているわけですが、そちらの情報を見ますと、広島市全体は非常に分散化している部分があり、簡単に言えば広島都市圏という形の中心部は空洞化しているという状況がある中で、行政自体がそこに人を集めたいと思っているのかどうかというのとも考えなきゃいけないのかな。それは要するに、コンセプトの案の中で、例えばスタジアムを中心部に造って、街の集客、賑わいを作るというのと、行政の考え方が合っているのかどうか、その辺を確認していただきたいなというのがあります。

続いて、次の6ページですが、発揮すべきまちづくりの機能として、サンフレッチェに関するミュージアム機能という形があるのですが、例えば、サンフレッチェさんももちろんそうですが、トップスポーツが広島にはたくさんありますので、広島にあるトップスポーツ全般のミュージアムの建設をしてもいいのかなというふうなイメージがあります。と申しますのも、数多くのトップスポーツがありますので、それらのミュージアムにすれば、より集客という形であれば、広い集客が見込まれるかなと思います。

それから、留意点の中に、収益性の確保が必要というのは、もちろんこれは公式戦、公

式試合が少ないという話からきている部分だと思いますが、女子サッカーとか、広島市内・県内で行われるサッカーの試合の数がたくさん出ておりました。そういったものをここで開催するような、もちろん芝生の養生とかの問題もありますけど、可能なものはどれくらいできるのかとか。この場所であれば排他性となってしまう、現状でいろんなイベントが今、旧広島市民球場跡地で行われています。そのイベントを、仮にここでスタジアムを造ったとしても、イベントはこのスタジアムの中でもできるだろうというような、そういったイベントだとか、ミュージアム、グリーンアリーナも含めた周辺一帯でのそういった集客性、スポーツでのまちづくりという観点もイメージしなければいけないのかなと思います。以上でございます。

### 三浦会長

今の永田委員のご意見で、まちづくりの方向性で、都心の核としての地域というのが広島市のプランですので、やはり相対的に商業的なところで地位が低下しているかもしれないけれども、状況の中でそれをさらに伸びさせようというのも一つの方向性だと理解をしていますので、それは今回の全体の中でずれてはいないと思っていますけれども、どうですかね。

### 永田委員

確かに街なか、中心部の活性化というのは当然必要でありますし、もちろんこれは重要な考えだと思います。しかし、それを本当にやっていくという、もちろんこれが賛同を得られるのであれば、それが一番重要なものであるから、賑わいが作られるのかなと思います。

### 三浦会長

コンセプトについては、それぞれ意見をいただいて、また盛り込んでいきたいと思います。

### 加藤（義）委員

いきなり一度に整理するのは難しいと思いますが、意見としては 6 ページにある「発揮すべき街づくり機能」というところがあります。そこであまりにも集客ということにこだわっているような。集客ではないですね。結果として集客なんだけど、市民がファンがここで集うという、ここに集まるというのが目的なんですね。そして、そこへ楽しい場所を提供しようじゃないかというふうな話なので、あくまでもこれはサッカーを通じた集客ではないと思います。サッカーを見に集まる、楽しみに集まろうというところの機能なんです。それが 1 点。コンサート等、そういったものも、コンサートで楽しもうということで、お客を集めよう、街なかに集めようというだけのものではないんですね。結果としては、



それが付带的には出るかも知れません。

「付帯すべき施設など」のところに、「付加機能は極力少なくして」というのは、これはちょっと意味が分からないですね。付帯機能は極力付加してというふうに、いろんな魅力的なものを入れるということを考えたくて、既存のものに限って周りのものを集めようやというんじゃなくて、新しいスタジアムを造っていいんじゃないかという視点で、コンセプトとしては展開をしていきたいと思っています。

三浦会長

恐らくここで書いてあるのは、競合化はしていきたいんだという意図だと思います。ですから、反対に相乗効果が得られるものであれば、多機能化は進める。もともとずっと昨年から話をしているのはそういうことです。ただ、ほかの今のものと直接的なライバル関係になってしまうと、言うなれば、それが出ているだけでは駄目だということです。

川平委員

我々がスタジアムを検討してきた時に、年間 20 試合ぐらいしかないから、サッカーだけでは採算が取れない。したがって多機能化であったり、複合化であったり等で推進してきたんで、これは明確に多機能化を含む開発はおかしいと思ったのですが、今の話を聞いて分かりました。スタジアムにどういう機能を求めるかということなんですが、4 ページの、今は中央公園と旧広島市民球場跡地は、基本的にはサッカーの単機能という、そこが前提、もちろん都市公園法の制約もあります。その中でどういった複合開発や多機能化ができるか。それを踏まえた上でそこを議論しないと変な形になる気がします。

加藤（厚）委員

その複合化のところがネックだと思っているのですが、収益性を確保するということなので、当然稼働率を上げるしかないんで、私は競合化してもいいのではないかと考えています。周りの店舗も、もっと特徴を出して違うものを造ってもらうしかないんで、商業施設はバッティングするに決まっているので、周りの店が独自に頑張ってもらうしかないかなという気がします。

三浦会長

それはライバル関係になってお互いが高まっていくという発想ですね。その辺は広くとらえないといけないことだと思います。

塚井委員

整備の仕方ということで、これはたたき台なので、今も、ある条件が制約、それをどうとらえるべきなのか、競合させるべきなのか、それとも単的に行くのか、これはコンセプト

トの問題なのですが、そこはさておき、我々はずっと検討会を通じて、確かに公園法の制約だとかさまざまな、全部の場所が更地でなんでもできる場所ではないということも確認してきたはずです。ここに書いてあるからいいとかなんとかじゃなくて、かかっている制約条件というのはやはり1回、もう一度整理しておきたい気がします。そういう時に、ややもすると忘れそうになる。絵を一生懸命描いていく過程は、それは想像力を膨らませていっていろいろなものを考える。だから、ここでこれを書くのがダメだということではないんですけれども、恐らく最終的な判断をする時には前の話をぶった切って、我々の中でそれを踏まえて議論したのだから、それを書かずに結論を出しますよということでは、後でこの資料を皆さんの前でご説明申し上げる時に何の話をしたのだらうと。ずっと議事録を最初から追っかけていただくと分かるけれども、しかし、結果のみを見ていくと、何が制約だったのかということが分からなくなってしまう、それをちょっと危惧しています。

今日のフェーズがどこにあるのか分からずに聞いていますので、この資料がどの段階のものかということもありますが。ちょっと膨張な作業になるかしれませんが、これは事務局の方と相談いただいて、どういう制約があったのかということもまとめといていただいて、それを込みでこれを書かれるのか、それはとりあえず置いてまずはどういうやり方かを、その位置づけをされながら進めたいなというふうに思います。そういう意味で、立地ポテンシャルのところ、ここはちょっと各論ですけども、いいこともあれば悪いことも。つまりはここではこういうのは難しかったとか、現状で何に使われていたかではなくて、土地利用でありますとか、分かり切った話がいくつかあったはずで。広島西飛行場跡地は、その件は踏まえていたと思いますが、先ほどの話し合いでこの説明はされないというふうに思いますので。いろいろなところで何がありそうなのかということは、出てきた話は出てきた話として一応残しておいて、それでまとめておいていただいた方が、後で我々が抜け殻にならない。私たちも大体覚えているつもりですけども、ついついそこが抜けてしまうということにならないと思います。

### 三浦会長

ここで一応、立地ポテンシャルとしてちょっと書いておりますけれど、もっといろんな要素があったので、それに対して私たちも議論をしてきましたし、説明を受けてきた。そういったところをやはりしっかり踏まえた上でのコンセプトになっているという流れが見えるようにしていきたいと思います。

### 高木委員

今になって、あるべき姿というか、志というか、思いありきということから入るはずだったのが、いろいろ、ここまで来てもたつくというのは、それぞれの意見が発表するだけであって、お互いの議論がなされてないので、一人ずつの言い分が正しいとか正しくない

とかいうことではなくて、これだけ人数がいれば違った考えを持っているのは当たり前ですけれども、そのへんがお互いに戦わすと言いますか、議論を述べることなくここまで来まして。それはやり方として別に異論を申し上げているのではなくて。でも、何か今になって、もっと将来のことを考えて、もっとオンリーワンのスタジアムを造りたいということ、それから目の前のものを造るということ、ずうっと何か並行作業のような気がして、もう少しそういった根本になる考え方がディスカッションされればいいなと思っています。でも、ここまで来たのですから、それぞれの場所でもし造られたらどういうふうになるかということ、せつかく進められてきたのですから、一応やってみることは私も賛成します。

### 三浦会長

一応、今出ていますスタジアムのコンセプト案、中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地のコンセプト案として、例えば中央公園自由広場・芝生広場等は「広島城に対峙する新たな「サンフレッチェ」のシンボルとしてのスタジアム」、旧広島市民球場跡地については「広島を中心市街地における街なか賑わいスタジアム」というようなところを狙っていますが、それで本当に秀でたものになっているのかとか、あるいは世界を見た時に世界から広島はこういうスタジアムを造ったのかと評価していただけるようなところまでなっているのかということまで、考え方をまだまだそういうところまで昇華、高めてないという気がしますので、そのあたりは今日議論いただきながら、コンセプトがまた新しく、よりいいというふうになるつもりですけども、ここに持ってきてまた議論できればと思います。

### 鵜野委員

今の話と同じなんですけど、旧広島市民球場跡地であれば平和公園に隣接するわけなので、ハード面であるとか、ソフト面であるとか、いろいろあると思うんですけど、広島らしさというか、平和というものを織り込めれば形としていいのではないかと思います。希望として、ただ単に街なかでというのではなくて、やはり世界遺産がそこにあるので、それを相乗効果ではないですけど、何らかの形で織り込めないかなと。これはFIFAのものにも合致するわけですから、ぜひサッカーでもそうですし、広島らしさを出せる分野だと思います。

### 小谷野委員

やはり我々が署名活動を展開して、街の中心部に作っていかうという議論の中で、署名をいただいた方々から多くいただいていますのは、やはり平和の象徴としてのスポーツの拠点を、あそこの旧広島市民球場の跡地に造ることによって平和を発信すると。それから、私は度々この場で言わせていただいています、クラス1のスタジアムでも女子サッカー

や年代別対抗の国際大会等、国際大会はたくさん開けます。そして、広島のあるその場所に造れば、国際大会をたくさん誘致することによって世界の人々に広島を、あるいは平和の大事さにもっともっと触れていただけることができるというふうに考えています。

また、稼働の話に関しましても、今回、私はブラジルのワールドカップに行ってきた、思ったのですが、スタジアムの周りに街なかですね、試合会場でなくてもパブリックビューイングなど様々なイベントが行われていまして、やはりワールドカップ、FIFAの関係者に聞いても、街なかにそういう集客施設があると、サッカーの試合が特に行われていなくても、ほかの競技のイベント、オリンピック、あるいはアウェー試合のパブリックビューイングも含めて、さまざまな集客活動ができるので、やはり場所は、中心部の活性化にもつながりますという話をされていました。そうした意味で、サッカーの試合に限らず、さまざまな人々の出会いや賑わいの場を創出しやすいというのが、旧広島市民球場跡地に造った場合の一つの大きなメリットであり、コンセプトの中核であろうと思います。

また、サンフレッチェのオフィス広島の事務局も今、我々のクラブ内にあるわけですが、さまざまな関係者の方々から、付帯施設の1つとして、永田委員等の発言とも関係するのですが、サッカーに限らず、スポーツ王国広島としての歴史を発信するようなミュージアムを街の真ん中に造ってほしいという意見はかなりいただいております。そうした意味で、ここはサッカーに限らず、広島スポーツミュージアムみたいなものを造ってきたいなあという思いも、関係者の希望としてかなり強くあるということも言わせていただきます。

また、実際に何に使えるのかということで、やはり平和記念公園の近接地でもありますので、8月6日の式典にも2次的な会場として利用できる等のメリットがあると思います。そうした点をぜひ、今回のコンセプトを議論する際にご一考いただければと思います。

それから、一つ、我々として考えなくてはいけないと思うのは、今、広島駅のあたりで再開発が進んでおりますけれども、そこでどのような機能が新しくできる中に織り込まれるのかということも結構大事なんじゃないのかという意見を、我々が日ごろ接しているサポーターや市民の方からもいただいております。具体的には、広島みなと公園と、街の中心部の両方に関わる話なのですが、もし、広島の再開発の中で会議場、コンベンション、貸し会議室とか、そうしたオフィスの色彩がかなり強まる中でそういったコンベンション的な、あるいは会議室用的な機能がかなり広島駅の方に固まってくるとなると、新たに造るスタジアムでそうした複合機能があった場合に重複してくる可能性もございます。そうした中で、先ほど私が本日の冒頭申し上げた発言とも関係するんですが、広島の中で今起きている開発プロジェクト等については、やはり今何が起きているのかについては、最低限、委員の中で議論していきたいと思います。また、塚井委員がおっしゃいますとおり、この中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地は都市公園法の制約が前提としてありますので、その辺はやはり踏まえた上で複合機能の議論をしていきたいなと思

います。以上です。

山根副会長

旧広島市民球場跡地のコンセプトは、「広島を中心市街地における街なか賑わいスタジアム」。いいですね。これしかない。ここのコンセプトは。その賑わいスタジアムのレベルの問題ですよね。今の 20 試合プラスいろいろな国際試合というようなことにおける賑わいスタジアム、ここは中心街ですから、現状でも期待される賑わいの場所とするならば、大きな賑わいを期待しているのですよね。だから、これだけの現状のサッカーの状況の理解ではいけない。それ以上の賑わいのスタジアムができるかというところが、このコンセプトのポイントとなる。この賑わいスタジアム、いいです。大いに賑わいさせましょう。

永田委員

すみませんが、ちょっと教えていただきたいのですが、このブーリン・グラウンドという施設が出ていますが、どのくらいの建設コストがかかっているのか、ご存じであれば教えていただきたいのですが。というのは、実はいろんな付帯しなければならないところがたくさんあると思うのです。我々が今からスタジアムを造っていく中で、簡単に言えば、クルマを買うのと同じなのかなと。クルマの中でいろんなオプションをつけていく。そのオプションが、いろんな付帯設備であって、どのくらいの、われわれが希望するクルマを買おうと思うのであれば、これだけのオプションを買えば、これだけの金額がかかってくる。であれば、どういうふうに調達しようとか、今後そういったものも考える必要が出てくるのかなという思いがあります。現状、ガンバ大阪の社長が来られて、お話しさせていただいた時に 140 億円という話がありました。それと、想定の中でこういった金額になるのかなあというのも我々が考えなければいけないことなのかなあ。我々 11 人が出した最終的な動きの際に、これがいい、こういったものを造ることを提案した場合に、たくさんの資金が必要となるので、できませんよというのが一番怖いんですね。ですから、まず既存の類似スタジアムで、どのくらいの金額で建っているのか。そういったさまざまな付帯すべき、付帯できるだろう物の、簡単に言ったら総コストがどのくらいになるのか分かれば、非常にありがたい。市民も分かりやすいのかなと。ある意味、120 万人近く広島市民がいますけど、全員が全員、いろんなスポーツがお好きであって、アンチサッカーの方もいらっしゃると思います。その方々を説得する上で、こういった金額でこういった施設が賑わいになればいいと言うためには、資金的な根拠を持って明示して、賛同をいただいて、後世に残していく。広島らしさ、平和、そして賑わいを作っていくというのが、次の世代にバトンタッチするために必要な考え方じゃないかなと思います。

三浦会長

まず最初の質問に関しては、解答は今できますか。

事務局（コンサル）

せっかくのご質問なのですが、ブーリン・グラウンドというのは開設が 1904 年でございます、当時の、今で換算しますと約 40 億円ということで、事業費の参考にはちょっとなりません。

三浦会長

ほかの件に関しては、コンセプトが出てきた段階で、すべてのコンセプトを満たせるかどうかという議論の中で・・・。

加藤（義）委員

4 ページのスタジアム・コンセプト(案) に、「広島を中心市街地における街なか賑わいスタジアム」。ここは、まあいいです。上下とも、Ｊリーグの提唱する街の集客装置という言葉から始まっているから、私もちょっと集客にこだわったのですが、やはりここは市民やファンがいつでも来れる最高の場所にあって、特に副会長が言われたような、平和公園のそばでもあるし、市外からも宮島の方も非常に集まりやすい、いい場所であると。広島のシンボルとしてというふうな、このコンセプトにもうちょっとうまく書けないでしょうか。ここは「Ｊリーグの提唱する（街の）集客装置として」とあるから、ちょっと抵抗があって、次の 6 ページには、「発揮すべき街づくり機能」のところには集客機能はあってもいいかもしれませんが、こちらのコンセプトとしては非常に大切なところで、非常にいい場所に素晴らしいものができるというふうなイメージがコンセプトに入れられればありがたい。

三浦会長

はい。そこは、前提条件のところで、トレンドとか踏まえたうえでどこかにするかということですが、あまりにもそこが前面に出ると、コンセプトとしてどうかというご意見ですが、そのあたりは次回に向けて進めていきたいと思います。

では、次の広島みなと公園の説明をお願いします。

事務局

それでは、広島みなと公園について、4 ページから説明をさせていただきます。

まず、「当該候補地の現況・まちづくりの方向性」ということで、【現況】として、広島市の南部に位置し、海の玄関口である広島港、広島電鉄宇品線、平成 25 年度末に開通した広島高速 3 号線の出島ランプと隣接している。また、周辺には大型商業施設が集積している。宇品地区は、広島海の玄関として、旅客輸送機能の強化や、潤いのあるウォーターフロント空間を形成する地区としており、広島みなと公園は、この地区の中心施設として、広く市民に利用される緑地として計画に位置付けられている。

【まちづくりの方向性】としまして、広域的な都市機能を担う拠点地区(4 地区のうちの 1 地区)。都心との機能分担や地区特性などを踏まえて、当該地区での立地がふさわしい高次都市機能や当該地区の中核となるべき機能を中心とした集積・強化を図り、活力と魅力ある拠点を形成する。(宇品・出島地区：港湾・流通機能、交流拠点機能)。宇品・出島地区のウォーターフロントにおいて、みなとの資源や民間の活力を多用し、多くの来訪者が親しめる賑わい空間を創出するための取組を進めることとしている。

また、【当該候補地の立地ポテンシャル】としまして、みなとの賑わいづくり事業の実施として、広島みなと公園から宇品波止場公園までの回遊性向上を目的としたプロムナードや案内表示等の整備やイベント開催などの取組。メッセ・コンベンション等交流施設整備(これは検討中ですが)に近接。広域的な交流拠点としての可能性。

これを踏まえて、【スタジアム・コンセプト (案)】としまして、「メッセ・コンベンションなど広域交流・観光集客を促進する交流型スタジアム」。Jリーグの提唱する「6 多機能複合型【スタジアム・ビジネス】365 日、試合のない日も人を呼ぶ」タイプと思われます。続いて 6 ページの下になります。

【コンセプトの展開イメージ(案)】ですが、まず発揮すべき街づくり機能としまして、MICE (ミーティング、研修、会議・コンベンション、イベント等)機能。MICEを通じた広域集客機能。観光集客機能。

付帯すべき施設などとして、ホテル (宿泊施設)。飲食・物販施設。展示施設 (平土間大空間)。会議場。

既存類似スタジアムとしまして、イングランド・コベントリーのリコー・アリーナが挙げられまして、複合機能 (併設含む) としまして、イベントホール、カジノ、レストラン。オフィシャルクラブショップ、フィットネスクラブ。コンサートの開催、バー。コンベンションセンター、コミュニティールーム。スカイボックスなどを利用したホテル。

留意点としまして、メッセ・コンベンション等交流施設整備との調整が必要。MICE事業は民間ノウハウに依存する領域が大きいと、スタジアムとセットにすることでの事業化スキームに工夫が必要(事業手法の複雑化)。以上でございます。

永田委員

すみません、ちょっと確認で教えていただきたいのですが、広島みなと公園は確か災害拠点として、国からの補助金によって整備されていると我々は認識しているのですが、使用用途の変更をした場合、国からの補助金をどのくらい返済しないといけないのかというのを、今現状の金額が分かれば教えていただきたいのですが。

三浦会長

確か、それはコンセプトの部分で、先ほども発言があったように、それぞれのところの制約条件等を示す中で対応していただきたい。

永田委員

そうなんですけど、そういったものも今後必要があるかなと思うものもあります。この、広域交流・観光集客というのは、4ページの上で考えている中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地と全く同じなのかなあ、メッセ・コンベンション等交流施設が造られるかどうか、それがあるかないかの違いくらいで、その辺はあまり変わらないのかなというイメージがあるので、その辺をもう少し考えていただけたらと思います。それから、6ページの留意点ですが、通常スタジアムの運営につきましては、今ほとんどのキーになる、一般的なＪリーグのクラブやプロ野球球団もそうなんですけど、そういったものの中でスタジアム、球場とかの運営の中でまず指定管理者になるかどうかでクラブの運営も変わってきます。事業化スキームという中で想定されているサンフレッチェさんが指定管理者を取った場合と、その他の付属施設、付帯施設との事業化のスキームはまた全然違うところが指定管理者を取った場合の付帯施設の事業化スキームというものを今後考えなきゃいけないかな。クラブの経営としてのＪリーグだけじゃなしに、プロスポーツ全般の運営での生き残りは指定管理者を取れるかどうかということになっていますので、その辺をどのようにするのかを今後考えていただきたいなと。できれば、そちらの補助金は、確か国から40億円近くの補助金があって、ヘリポート等も含めて広島みなと公園が造られていたと、以前ご説明いただいた時に記憶しているのですが、償還が過ぎた、もし現状でスタジアムを造るならば国に返還しなければいけない補助金の額というのが分かれば教えてほしいなというのが。以上でございます。

加藤（厚）委員

こちらのコンセプトで、例えばミーティング、研修機能とか、ここでやるのはこういうことをせざるを得ないというのは分かりますが、複合機能を付帯せざるを得ないのはよく分かるのですが、私はこういう機能こそ街なかに持ってきて、先ほどから言っている競争を激しくさせる。何しろほかのホテルとか競争させることで良くなるので、これをぼつんと持ってきてもあまり意味がないんじゃないかと思います。

三浦会長

コンセプトそのものがこれでは弱いということになると思うのです。例えば、6ページを見た時に、先ほどの中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地に関して、「発揮すべき街づくり機能」。基本的にはサッカースタジアムを造るんですけども、サッカーそのものがどういうスタジアムがそこにあることに意味を持つのかとか含まれて機能という形で表われていると思います。そういった時に、広島みなと公園の場合、サッカーの部分が薄くなってしまっている。そういうコンセプトになってしまっていますので、まずは最初の段階として、あの場所でサッカースタジアムを造り、サッカーをすることがどういう



意味を持ち、それがどんな機能を発揮するかということをコンセプトの中にベースとして必要だと思います。それがあった上で、プラスとして何ができるかということだと思います。今、プラスとしての部分が表に出てしまっていますので、こういうコンセプトの立ち上げはうまくないと思います。

高木委員

4 ページの上の段で「広島を中心市街地における街なかの賑わいスタジアム」のところで、私は生活者の立場からの発言なんですけども、中心市街地活性化という、この活性化というのが非常にあいまいです。賑わっていることは、必ずしも物が売れていることにはつながっていない。たくさん集まっていることと、特に街の活性化に役立っているかはちょっと意味が違うと思います。例えば本通りの商店街にもしこのお客様が流れるかと言いますと、ただ通路としてお使いになるのはありますけれど、物が売れるかという、そういうことにはつながっていない。やはり、本当にどういうお客がどこで何を買うかという、もっと本当にお金を使っているのは、女性なんですよ。その人たちが、こういった時に自分の価値でお金を惜しまずに使うか。そういうことも含めて、もっとただ漠然とした街なかの賑わいということで、ぼやとした考えではなくて、もっと具体的に何がどうということまで示さないと、なかなか女性の生活者の人たちからは賛同を得ないと思います。

三浦会長

コンセプトとして、活性化という言葉がいろんなところで使われますけれども、その本質についてもっと噛み砕き、それから何が起きるかということもコンセプトの中で表現していただければというご意見なんですけども。それは恐らく広島みなと公園の方でも同じことでして、広域交流とか観光集客という言葉を出していますが、じゃあ実際それはどうやって見出そうとするのか。基本はサッカーというコンテンツがあるんですけども、それであえてここに造ることで広域交流・観光集客をかぶせるのはどういうことかということを、コンセプトを立てるには必要なことだと思います。

永田委員

地域活性化というのは、悪い意味でもいい意味でも、お金が地域に落ちないと、というのは皆さんご存知の通りだと思いますが、そのお金を落としていく際に、例えば本当にお金を落とす中心になるのは女性だと思うんですね。女性であるということも研究で出ていますので、いかに女性が来やすくなるようなコンセプトを打ち出すかというのを今後は考えていかなければならないのかなと。広島みなと公園であれば、こうやって本当にお金が落ちるのか。例えば、周辺地域、その他の地域があると資料には書いてあるんですが、そこへの移動手段としては、周辺の場所に行こうと思うと、ちょっと距離があるので、どうし

でもモータリゼーション、要するにクルマとか電車とかで行く。かなり徒歩というのは厳しいというのがあるんで、そこまで含まずに、非常に機会損失というのが出てくるのかなというふうに思います。ですから、単純に、コンセプトとして、今おっしゃったように女性で、特に分かりやすく、一般の方々にもわかりやすく、初めてサッカーを見たいと思う方にも分かっていただけるくらいのものが必要なのかなと思います。

三浦会長

そのへん、今回初めてですので、たたき台ですので、もっと内容を詳細にしたものが。

加藤（厚）委員

私は、地方都市の街づくりは、基本、コンパクトシティーだと思うんです。そういうことを考える上で、周辺に出すということは、都心との機能分担、高次都市機能のことを書いてある、これを周辺に出してまでやるべきコンセプト、まちづくり全体のコンセプトを明確にしてもらわないと、やっぱり弱いと思う。わざわざコンパクトでない方向に持って行くわけですから、そうした方がいいんだという明確な理由づけをしてもらわないと、難しい。そのまちづくりが決まると、あとは民間企業が自由に競争するしかない。そこはもう企業努力なんで。それをインフラをどうやってするかという時に、コンパクトシティーなのかそうじゃないのかということを戦わすのかということを明確にしてほしいです。

三浦会長

今のは、恐らく宇品・出島地区をどうしたいのかということを併せて、その中で、サッカースタジアムを造ることがどう寄与できるかをいうことを、いかにコンセプトの中に表現できるかということです。

鵜野委員

宇品に造るとしたら、メッセ・コンベンションで宇品のまちづくりを進めるんですよというのはもう決まったことなんですか。ちょっと勉強不足なもので、もしそうであれば、それに合わせるようなスタジアムを造らないといけないだろうなというのが1点。メッセ・コンベンションを前面に出すのは何か広島らしくないかなという感覚で、どっちかという、海の玄関口とか、ウォーターフロント、そこら辺をコンセプトの中の一つの柱として、メッセ・コンベンションはどこにでもありますから、宇品にスタジアムを造るのであれば、広島らしさをコンセプトの中には盛り込んでいただければと思います。

塚井委員

このところは、恐らく、どちらかというとな何ができるからその中でという議論ではないと思います。いろいろご指摘がございましたように、私も、あえて視点を、都市計画の

現実的なことを申し上げますと、私は、ここは地方都市じゃないと思っています。したがって、コンパクトシティを考える必要は相当強くない。どういうことかと言いますと、海外から見ればこの街は、唯一の街です。広島という名前は、どこへ行っても必ず、説明しなくても。したがって私は、広島大学におりますけれども、大変な恩恵を受けております。広島の名前そのものが持っている力。これをどう生かしていくか。平和というのは、これは実は、原爆のことを知らないから平和と言うのは、などと決して考えなくていいと思うんですよ。平和な、そして、スポーツがこの象徴である。このコンセプトは全般に通じるものであって、コンパクトシティを考えなくていいのとは、逆に、それを無視すればいいというものじゃない。これは、広島そのものをこのスタジアムを起爆剤にしてどう造っていくかという話ですので、ここは若干大風呂敷になるかもしれないけれど、ここを拠点に考えていきたい。その時に平和が1つのコンセプトになることを。あえて申し上げますと、ここに造ってくださいと申し上げるのではなくて、もしそう考えるとしたら、第3の都市。広島の中で中心部は、平和公園と原爆ドームのこの辺りで、そして皆さんお忘れかもしれませんが、もう一つの世界遺産は宮島。その玄関口にあるのが、ここということで、三角形の形で広島を回していくという、大きな絵が描ける場所でないかと思います。もちろん、それはこの旧広島市民球場跡地でも同じなんですけども、だから街がコンパクトであれば全部いいんだというふうに考えなくても、逆に、もし中心市街地の方へ考えるのであれば、ここだったらコンパクトになりますよという見方はいいと思います。それは一つの考え方で、全く反対するものではありませんけれども、広島みなと公園を検討する時にコンパクトにならないからダメだという見方をしていくと、多分広島みなと公園の良さは出てこない。なので、それぞれの場所の良さを引き出すように、僕は考えてあげたい。もちろん制約条件があるのは承知しています。いろいろ事業化のことがあったり、今まで経緯がありますが、できるだけこの場所がいい場所であるということを、それぞれのところと言われるように、議論を進めたい。どこかは良くて、どこかはあまり良くないとか、あまり最初から。最終的に取りまとめる時に結果が出てきたら、それはまあその時に考えればいいわけで、今手足を縛る必要はあまりない。その意味で、世界平和都市なので、世界から見れば広島みなと公園であろうが、広島西飛行場跡地であろうが、どこだろうが、平和なんていうのはどこでも通用するコンセプトです。これはどこにでも盛り込んでいただけたらと思いますし、その中でサッカーというコンテンツなり、何かをどう生かせるかというようなことを議論すればよい。それが地区の計画性と整合していることはもちろん。飛ばした話をいたしました。

永田委員

追加でちょっと確認していただきたいのですが、中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地の案と広島みなと公園、この2つに集約する場合、こういった交通アクセスがあるのか、そして、試合後どういうふうに分散して帰っていただくかということが想

定されるか。ちょうど広島西飛行場跡地で考えられたような渋滞、もし車で行くという形であれば、旧広島市民球場跡地につきましては、皆さんご存じの通り、いろんなアクセスがあると。広島みなと公園であれば高速もあり、それから広島電鉄とクルマかな。そうだった場合、混雑、渋滞等は起こらないのかどうかというのも、やっぱり考えないといけない。

山根副会長

それは後からやるんですよ。次の時は次の時で話をします。

永田委員

次の時に、それをぜひ入れていただきたい。お願いします。

三浦会長

それは、もともとの工程表の次の分に入っていますので、そちらで当然やることになっていますから。今はコンセプトの話です。はい。

加藤（義）委員

メッセ・コンベンションなどというタイトルから始まるのが、ちょっと抵抗がある。やはり、海の玄関口だとか、やっぱり、海の、港の中のスタジアムを造っていかうとか。何かもうちょっと夢のある、メッセ・コンベンションですと、やはり自治体、商工会議所等の計画の中で、そこの調整が非常に難しくなる恐れがあるし、場合によっては消えた時に困るんですね。やはり海の玄関というのはテーマとして大きなコンセプトに積み上げるような取り組みをやってほしいと思います。

三浦会長

その通りだと思います。

山根副会長

旧市民球場跡地のところが中心市街地という言葉になっていますよね。よって、こっち側が違うでしょう、広島みなと公園の場合はですね。その中心市街地以外の新しい市街地をつくるという形だ、広域市街地と言いますか。そういう意味での港でもあったり、いろいろ位置づけられるのかなあと。やはり、今、津波とか、港、海側にはその要素が気になりますよね。この場所だけでなく、ずるずると。そういう意味での防災機能というか、拠点というか、そういうものもあってもよさそうに思います。

川平委員

広島みなと公園の場合は、6 ページのコンセプトの展開イメージは、サッカーというイメージが少ない。基本はサッカーですから、サッカー機能を中心に置いて、その周辺にどういった機能を作るかということなんですけれども。そのこのコンセプトのイメージとして、瀬戸内海とか、海とかをぜひ絡める。イメージにしか過ぎないかもしれませんが、海の玄関がいるという、そこはやっぱりコンセプトの中に入れて、出していくことが必要かなと思います。

#### 加藤（厚）委員

ちょっと分からないところがあります。どう理解していいかが難しいのは、先ほどからお話に出ている「平和」というのをコンセプトに入れるというのは、広島の街自体のコンセプトであり、スタジアムにそこまで入れなきゃいけないものかなというのは、ちょっとよく分かりません。この町自体の大きなコンセプトであると考ええると、スタジアムにどうブレイクダウンしていいかが、多分難しいというか。そのあたり、どうされるのかなあと。どこの立地であれ。

#### 三浦会長

先ほどもありましたように、旧広島市民球場跡地が隣接しているから、そこが平和を発信できないか、そうでもないという声がありましたので、それぞれの場所でどういうコンセプトがその場所の個性を表せるかというのは、さらに、皆様のご意見を今回いろいろいただいたので、それを受けてまた次回に向けて提出できるかと思っています。今日、また資料を見られて、気づかれたこと等があった場合には、基本的にはですね、コンセプトとしてこういうものはあった方がいいのではないかと加えるようなものがあれば意見をいただければ。これはなしにしましょうという意見があったら、それはこの場で議論したいと思いますので、次回、メニューとして増やすために、こういうものを加えたらということで、何かあったら、また事務局の方に評価していただければ。すべてが反映できるかどうかは時間的なこと等もありますが、いろんな意見をいただいた方が、次回に示せるコンセプトが進んだものになそうです。もう一つ、広島西飛行場跡地については、先ほど議論がありましたので、こちらについては特に触れないということにします。ただ、この中に書いてある内容については、今残っている場所で応用可能なものもあるかもしれませんので、それはまた見ていただければ。ここに書いてあることはこっちで使えるのではという意見があればお願いします。

#### 塚井委員

私の理解が間違っているかもしれないので、前回落とされたのは、広島広域公園が落とされたのですか。

三浦会長

広島広域公園については、同じような議論で、新規に造る場所ではないので、こういう新しいコンセプトを打ち出すことには該当しないということが書いてあります。

塚井委員

広島広域公園には広島広域公園の経緯があって、私の理解では別にあそこを一方的に排除したというふうにはとらえていません。一応、残っていますので。希望としては、あそこをあのままにしておいていいわけではない。事実上、ほとんど考えていないということかもしれませんが、しかしながら、地域の継続性があるって、当初、こういうコンセプトでやるんだというのがモチーフにはあったはず。だけど、こういうところはまずかったよねということが、確か冒頭の2、3回で説明がなされた。記録としては残しておくべきだと思いますし、その意味ではあそこに手を入れるならばどういうことがありえるのか。今更新しいコンセプトを考えて、どうのこうのということに時間をあまり使いたくはないですし、当初考えられていたものと現状を鑑みればこういう問題がありますよね。これはちょっとよろしくないですねというのは、すべての起点になっているはずで、その話の原点が結局ない状態のまま、そのままどういうふうに進められたどうか分かりませんが、希望としては出てくるのかなと思ったりするんです。だから、現状はここまでで、次のコンセプトが描けないという話がまたあるんですけども、現状無いと言われると、本当に残しているのかこれは、みたいな感じがあります。

三浦会長

その辺は次回に向けて。決して落としたわけではない。ただ、新規に今私たちが作るという意味でのコンセプトを打ち立てる。そういうところはないということです。

永田委員

事務局に確認していただきたいのですが、資料4の道路・公共交通網の将来計画ですが、2ページ目に広島広域公園の延伸が西広島にという形になっているんですが、正式に決定されてないと私は認識しているんですが。西広島が望ましいという案で、確か現在止まっているように思っていますが、その辺どういうふうに進んでいるのか、今後いつに決まるのかということをぜひまた教えていただければと思います。

三浦会長

おそらく、今年度末までかかるということで、今検討しているというところです。

資料6ですね。「サッカースタジアム整備の検討に係るアンケート調査の実施について(案)」ですが、こちらについて、どういう目的で、どういう内容で行われていくのか、どういうふうに使うのかということのを整理したものの資料ですので、説明をお願いします。

## 事務局

以前から協議会の中でありましたアンケートについて、事務局の方でできるだけシンプルなものでいったほうがいいんじゃないかということで、作成しております。目的としては、サッカースタジアムに対する市民・県民意識の基礎調査を行うとともに、サッカースタジアムの整備を検討する際に市民・県民が重要とする視点を把握することを目的として実施する。調査結果の活用方法としては、調査結果は、最終的な候補地の絞り込み、評価の際の参考資料とする。アンケート調査の留意点としましては、分かりやすく、公平・中立で客観的な質問内容とする。アンケート調査の内容についてですけど、先ほどのコンセプトと一緒に、あくまでもたたき台として出させていただいています。基本項目として、年齢、性別、居住している区、サッカースタジアムに対する意識の基礎調査。サッカースタジアムの整備を検討する際に重要とする視点、広島に相応しいサッカースタジアムの視点、各候補地に対する思い。アンケート調査の対象としましては、広島市に在住する男女（18歳以上）を区ごとに無作為に抽出する。アンケートの規模としまして、調査者数 2000 人以上。要求精度としましては、区ごとで見た時の標本誤差を 10%以下に設定をする（全体では 5%以下）。回収率としては 40%、標本数 800、調査方法としては、郵送でお送りして、返ってきたものについては着払いでやるという形で、時期としましては、26 年 8 月の上旬から中旬、取りまとめを 8 月下旬という形で提案させていただいて、これについてご意見をいただければと思います。以上です。

## 三浦会長

こういった内容で、目的があります。どういうことを聞くのかという内容が提示されています。具体的な聞き方についてはまた、今回の議論を受けて、次の段階で。いかがでしょうか。

## 加藤（義）委員

スタジアム整備の検討をするアンケートを取ってどうするのか、ということをちょっと疑問に思います。こういうアンケートは取るならば、我々の協議会が始まる前に、どこかの機関で取るか、あるいは、もうちょっとどこにどんなものを造ろうかという話がある程度まとまった段階で、このアンケートを取るかですね。今の段階でこのアンケートで意識の基礎調査をして、どういう答えが出たらどうするのか。協議会はなくてもアンケートで済みますのかというような話にもなるわけです。だから、アンケートを取るタイミングは、内容的にはどうも私にはピンとこないですね。今協議会でやっていて、どういうことをやって、特徴を出そうかということが決定してからでないと、今から取るならばアンケートはその後の話。それともう 1 点は、以前は 37 万人、今は 40 万人と言ってますけど、署名活動が集まって、この協議会がスタートする大きなきっかけになったんですね。そういう中

で、もし取るとしても 2000 名くらいのところでいいのかどうか。加藤先生あたりに聞いてみないと。サンプリングとして 2000 名くらいの適当なサンプリング調査としての抽出数がこんなものかどうかというのは、私から見れば非常に小さなことで、非常に偏ったデータが出る恐れがある。せめて 10%くらいは取らなきゃいけないんじゃないかと、普通の場合だと思いますね。そういう意味で、2000 名以上でこういうのを取って、何をするのかというところが私には分かりません。

### 三浦会長

どの時点でどう使うかについては、議論だと思います。もう一つの標本数に関しては、ここに精度としては誤差 10%ということを書いていますね。回答されて例えばアンケートで何%の人が回答しているということを言って、二つを比較したりしますけれども、それにも誤差が生まれてきます。その誤差が 10%程度という誤差まで許すのであれば、統計的にはこれだけのサンプリングが取れば十分だということになります。ですから、細かいことの数字までは確かじゃないのでそこは誤差があるというふうに判断しないといけませんけど、大きな意味での傾向はこれで掴めると思います。非常に少ないということではない。それだけ誤差は含めた結果を見られる。その前段として、誰に頼むのかという時に、無作為で抽出を回していくわけですね。よく世論業者等で使われている手法でやっていきますので、いろんな層から取れる。取っていくようにはなります。前者については、ここにも⑤番のところでスタジアム・コンセプトについての共感度合いを尋ねるということを言っています。そうなってくると、ある程度、今議論しているコンセプトが絡まってこない、と、取れない。であれば、ここに言う 8 月上旬というのは実は難しいということでございます。

### 加藤（義）委員

何で今の段階でこの程度のものを取るのかという。

### 小谷野委員

私は、従前より、市民の意見はできるだけ取り入れた協議会をするのであればする。その中でアンケートなどは有料な手段であるというふうに私はずっと言ってきたわけですが、逆に言うと、どういうコンセプトがあるのかとか、そういったのを聞くためのアンケートを想定していたんですけども、スタジアム協議会の、今の後半の後半になった段階で、またこうしたアンケートをある種蒸し返しのやるのはどうなのかなと。というのは、もともとスタジアム協議会を始める時に私はアンケートをやるべきだと思いますが、この程度の内容で今やる意味があるのかなと、私はちょっと疑問に思いますね。これは、本日出ていない野村委員がぜひ言っておいてくださいということなのですが、全く加藤委員と同じ話でして、スタジアム建設署名は 40 万人集まっている中で、統計的に精度が高い



低い議論ではなくて、2000 人に出して 800 の標本みたいなのはいかにも少ないんじゃないか。やっぱり統計的にはそうだということではあっても、なかなかこれは納得を得られないんじゃないかなというのが野村委員の意見として伝えてほしいということです。私も、従来よりアンケートをやろうやろうと言っていたクチなんですけれども、私はもっとこの協議会が始まった時に、初期段階でですね。まさに、今日議論したようなスタジアムのコンセプトなどを場所別に聞くような形でのアンケートを想定していたので、ちょっと私が想定していたのとも違うなあと思っております。

#### 加藤（義）委員

例えば、J リーグの提唱するスタジアムの未来の項目をどれぐらい重視するかということ、ほとんどの人は分かりません。それで、ここで資料を付けて予想するからといって、まず読まないですね。やっぱり 800 人の抽出をこれだけのサンプリングで無作為に調査した場合に、一体どういう結論が出るかどうか分からないし、これを参考にしなきゃいけない。参考にするつもりがあるのかどうかと思うのですが、私たちが今日も議論したように基町（中央公園自由広場・芝生広場等／旧広島市民球場跡地）と港（広島みなと公園）とに集中して情熱を傾けるべきじゃないかと思うんですね。これを、結果はどうなるかと言って、一体何を変えようとするのか。むしろ、今脇目をふらずに基町とみなと公園を集中して完成させていかなきゃあ、我々の協議会の目的を達しないのではないかなと思います。

#### 三浦会長

ただ広く意見を求めるということは必要だと思います。ただ、それをいつの時点でやるかということに今議論がありましたんで。手法についても。ただ、ここの場の私たち委員だけの議論ではなく、ある程度こうやっている内容について広く市民・県民がどういうふうに思われるかということは、私たちも耳を傾けていく必要があると思われます。その手法については、もう少し今も意見がありましたので、考えていませんけれども、しないというわけには私どももいかないと思っています。

#### 鵜野委員

本来はアンケートをとるべき時期にいろいろそうやるべきだったと思うんですが、今から 10 月の間に何ができるのかということと、ここにいるメンバーだけでずっと意見を出して固めていくよりも、多少なりとも一部の人が今の時点でどう考えていらっしゃるのか、これはあくまでも参考なんで、それも精度とかいろいろあるとは思いますが、あつて害はないかなというふうに思っています。あとはアンケートでという方法もありますし、やはり若い人が何を考えているのかということになると、この委員会には広島を代表する大学の先生方がいらっしゃるんで、ご専門の分野もあるとは思いますが、やはり若い人の代弁者として意見を聞いてもらえればなというのもあります。以上です。

小谷野委員

率直にこのサンプル図は予算の制約はあるんですか。

三浦会長

このことで予算を取っていないので事務局側でやっていく必要があります。そのへんは工夫が必要になるので、ちょっと標本数については検討させていただければと思います。

川平委員

こういうアンケートは、無作為に抽出して行うんですけれども、いろんな客観的な情報を正しく理解して、正しくお答えになるかどうか分からないですから、そこはやっぱりあまり詳しいといえますか、詳細には聞けない。やはり、目的のところは、意識と視点。これについてを意向調査するというレベルにしかないんじゃないかなと思うのが1点と、もう一つは、市民の方にはサッカーに行ったことのある人もいらっしやれば、行かない人もおられる。だから、一般の市民で、サッカーの好きな人、そうでもない普通の人の、その意向も聞かなきゃならない。そうすると、要はサッカーへの関心度に応じた調査と分析をしないと、公平な意見は出ないのだと思います。以上です。

加藤（義）委員

こういうアンケートは、私たちの協議会がまとめるアンケートではないと思うのです。ただ別の機関でアンケートされるのは、何も言いません。どうぞ取ってください。参考にもなろうかと思いますが。我々協議会が事を進めるにあたって、このアンケートがないと自信を持てないというものではないということです。

山根副会長

私はアンケートが適切だと思います。やはり、協議会のメンバーでいろいろ激論していますが、一度多くの周囲の方々にどう思われているんですかということは、何かの形で聞いてみたいですね。

加藤（義）委員

これぐらいの深さでいいと思われますか。

山根副会長

ええ、いいんですよ。ともかく何でもいから、統計的に合うようなものできちっと聞いてみたいですね。統計の方法には合うんでしょ。例えばNHKなどの世論調査だとか、そんなことでやっておられるわけでしょ。

## 塚井委員

交通も研究していますけど、統計も研究している立場から申しますと、確かに今おっしゃったことはすべて当たっています。一面、これで十分だというような数にはなっていると思いますが、だからと言って、そもそもの、私が研究で一番困ったなと思っているのは、対象者を設定するけど、返ってくる人の分布が設定した人の中からランダムに返ってくるというのがそもそも間違いで、興味がある人しか返しません。これ、どうしようもないんですよ。こういうタイプの調査では必ず起こるので、それを補正しようというのは技術的にはほぼ不可能に近い話です。ここのところはどうしてもズレちゃって、なかなか、一面では正しい、量的にはこの数で合っているとは言えますけれど、これは教科書にも書いてありますし、教科書に書いてあるから正しいとは言えないですけど、ほかに頼る方法論はないので。しかしながら、返ってきたものはう～んというような時はございます。もちろん数が多ければそのような結果でもやはり。10%も抽出して、ある傾向が出て、こんなのは間違えたというのはこれはちょっと言いすぎだと思いますが。そもそも母集団が何人なのか、そもそも分からないので。広島市だけを対象にしなければならないとか、そんなこと言わないと、何百万人か分からない話です。そんなことを言っているしょうがないので、先ほどから議論になっているのは、我々の協議会としての考え方との整合性です。ここを少し考えるとすると、例えば④番は難しいんじゃないかとか。これは検討の余地があると思いますが、実は⑤番が一番色が付いちゃっている感じがして、これを聞くと、我々が出すある種の結論と整合しないものも出てくるかもしれない。⑤について慎重に考えるべきではないだろうか。逆に言うと、今どれくらい試合を見に行かれていますかとか、どういう試合に行きたいですかというのは、これはまあある程度それなりのことは書いあるはずですよ。ここのところを押さえておけば、ほかのことにも使える情報としては参考にはなる。しかしながら、数が十分ではないということをももちろん認識しながらですよ。そういう意味で⑤をどう聞くのかが、コンセプトに対する共感を聞くというのはいいかしませんが、どうしても場所が今くつついちゃってますので。コンセプトと場所がピタッとした状態でこれをやるというのがどんなのかなあというのがありますね。前回の議論に参加せずに申し上げていますので、もうこういう話は片付いているのかなあというふうに思いながら伺っていたんですが、必ずしもそうでもないのかなという感じです。

## 三浦会長

アンケートそのものを見ていくと、大きく二つ聞こうとしているわけですね。①と④は、本人の基本的な情報を聞こうとしているところです。③に関して言うと、実は私たちが評価のウェイトニングをするわけですが、それについて、じゃあ市民の方はどう思っているかを聞こうとしているわけです。このことはどうなのかということにご意見をいただきたい。④、⑤については、コンセプトを私たちは今出そうとしています、コンセプ

トについて聞くことそのものを確かに危ういと感じます。④などはかなり難しいし、抽象的な部分もあるので、どうなのかというご意見もありました。ただ、その一方で、⑤にすると、場所というものがあって、場所に対しての投票みたいなものになってしまってもまずいんじゃないかというご意見もあったと思います。

まず③のところですね。「重要とする視点」について聞くというものですが、具体的な部分で何かご意見があれば。難しいというふうに思えるか、ある程度聞けるのではないかという感触があったのか。

#### 塚井委員

これもちょっとそんなに簡単じゃないだろうなという気がします。なぜかという、一般市民の方は何も考えてないとか、そういうことではないんです。いろんなことをいろんな人が考えられていると思いますけども、例えば、環境保全に対する意識を聞きましょうというようなのと全然違うわけですけども、これは、環境保全にかかわるコストみたいなのを度外視して考えると、保全しないのと保全するのとどっちがいいのという議論をすると、それは保全した方がいいに決まっています。ところが、我々いろいろな技術的な課題とかコストの問題とか、だから環境を重視しなくていいとはならないんですが、その中ではこう考えていく。その立場の人と、それから決定的にそういうものは大事なんだという、その思いとは、判定が違うところがあります。最終的には、製作していく時には、その両方が大事になっていくわけで、アクセス性がいい方がいいですか、悪い方がいいですかと聞いたとすると、いい方がいい。私だってそう思います。サッカーをどれぐらい見に行くかは脇に置いておいて、サッカースタジアムはいい場所にある方がいい。それは必ずそういうふうに思います。それは間違っているとは思わないのですが、どういうふうに読んだいいのかということがいつも頭を悩ませまして。こういう時は、普通はAとかBとかいくつかの選択肢があった中でどうか、総合的にどうかという議論をしないと、なかなか。いい方がいいか、悪い方がいいかという聞き方をすると、それはいい方がいいという話になって、それは本当に参考になるのかなあという感じがします。ですから、この話は、申し訳ないんですけど、設定は大変難しいところです。すべてのコンセプトが固まって、ある程度それぞれ写真が出てきて、その中でほかのものも総合的に、ここだったらこういう内容のスタジアムになります、こういうまちづくりになります、こうです、こうです。それも全部含めて、じゃあそれはどれくらいですかという聞き方はできそうな気がします。今、後ろの方の⑤の言い方をしましたけれど、④もふわふわしている。③から先に聞いちゃうと、それは多分便利の方が良いとお答えが多いでしょう。そのような気がしますが、読み方に苦勞するということがありそうです。その思いは別に否定するわけではありません。アクセス性が良い方がいいと思います。ケースケースで、聞き方の問題です。

#### 高木委員

私は、このアンケートの内容を見まして、この検討協議会が始まる時点にこういうことは当然一般的に取りかかるべきじゃなかったかなと思います。時期的に今になって何をやっているんだという、ちょっと。すみません。

加藤（義）委員

設問の内容もまだ決まってないんでしょう。

それはもうものによったら、アンケートをとってもいいとは私も賛成します。ものによれば。設問の内容も、こういうものでアンケートを取るのならという、意見の出し方が違うと思う。今回の提案のことについては。

山根副会長

例えば例として、アクセス性、発信性。例えばこの前の話じゃないですが、どれを重視しますかというようになれば、この 5 項目の中から一番大切だと思われるのはどれですかというような問い方もあるわけでしょう。そういう意味で設問のしかたによって、要は、市民の方の意見を聞かねばいけんのじゃないかと、私は思います。

加藤（義）委員

今、アクセス性とか、経済性とか、いろいろ検討するに当たって、大変悩んでおります、と。なかなか決め手がないんですと。どうか、皆さんご意見があったら出してくださいというようなのがアンケートです。そういうものなんです。新しいスタジアムができれば、行ってみたいというようなものであればみんな〇します。新しいものが出来たら誰でも何でも見に行きます。そういう、設問の内容が、これを我々の協議会で聞かなきゃいけないのかどうかということが、そういうことです。

三浦会長

③の話でいくと、まず答えに落とし込むのが難しいんじゃないかということ。ただ一方で、市民・県民がどこを重要視しているかを聞く必要もあるだろう。ただ、その一方で、すべてに対して重要だと答えられても困るんだというような意見がありました。どうまとめるかということになりますが、ちょっとここは、ただどうやって市民・県民の意見を求めるかということになってくる。ご意見を聞きながら思ったんですけども、③については重要性ということでかなり難しい判断が入るところで、私たち自身も今からAHPでやろうとしているわけです。そういった中で、⑤に関して、今のタイトルが各候補地に対する思いとなってしまっている。そうすると、場所に関しての意見になってしまう。各候補地というものを挙げるんですね。今、いろんなコンセプトとして挙げているものを、そのものに対して共感をしていただけるかどうかを聞くという手段はあるんじゃないかと思うんですが、どの場所かというと、今、それぞれの候補地のいろんなコンセプトを立ててい

ってますけれど、確かにサッカースタジアムの中にそういうコンセプトを作るのはいいねと言ってもらえるかどうか。これは聞いてもいいんじゃないかと思うんですけども。いかがでしょうか。

川平委員

そういえば先ほど、各候補地のコンセプトを比較してどちらがいいんですかという聞き方ではなしに、それぞれの候補地についてのコンセプトはこうです、それについての共感を聞くのはいいと思いますよ。それを比較させると、候補地選びになりますから、若干リスクがあるという気がします。

永田委員

どうしても気になってしまうのは、2000名という、統計学上の問題点は、2000名の40%の回答という形は問題ないと思いますが、2000人でこの120万人都市で、2000人でいいのであれば、単純に言えば、アンケートをやったという既成事実だけで終わってしまっただけは、非常にもったいないなと。これだけいろんな方々がいろんな集合があり、ネットとか、いろんなやり方もあると思いますし、何も郵送で答えていただくよりも、簡単なネットでの、18歳以上というわけじゃなくて、もっと若い方からもいただいてもいいとも思っています。18歳以上というんじゃないで、次の次の世代という方々にもぜひ、今プレーしている、いろんなスポーツを競技している、そういった方々にもぜひご意見をいただきたいなというのがあります。

三浦会長

インターネット調査というのは、確かに手法としてあります。ただ基本的には、無作為ではなくて、ある程度層を区切って、登録した方に対してやりますので、どこまでそれが適用できるか、検討させていただきます。先ほどから議論のあった③の部分の聞くかどうかについて、ご意見をいただきたいと思います。

小谷野委員

まず質問を見た上で、検討しましょう。

三浦会長

では、一応、③についても、聞く案として次回に向けて調査票を作ってみることにします。基本的には、これを実施して、私たちもこの場でいろいろ議論しているんですけども、ずっと報道もされながら、多くの方々がどういうふうに思われているかは、何かの形で聞きたいと思います。調査票そのものはまた検討したいと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。以上で、時間はかなり超過しておりますけど、本日の予定は終了となります。次回に向けていろいろとありますけども、整理をしまして、また近いうちに議

論ができればと思っています。

事務局

今のところは予定としまして7月の下旬、29日の火曜日あたりを考えております。また、委員の方々にある程度煮詰まった時点でご連絡をいたしますので、今のところ、そのところが各委員の出席率が高い日です。また事務局の方で検討して、会長とご相談しながら。よろしくお願いします。